

## 第19 栄養部

栄養部では、治療目的が達成できるよう病態に応じた治療食の提供や栄養食事指導を行っている。

スタッフは、県の管理栄養士7名（常勤3名、会計年度任用職員4名）と給食業務受託業者（富士産業株式会社）職員（管理栄養士、栄養士、調理師、パート）である。

### 1 治療食の提供

治療食には、塩分・エネルギー・たんぱく質などの調整が必要な「特別治療食」とそれ以外の「一般治療食（常食、嚥下食など）」があり、令和2年度の延べ給食数は193,559食（1日平均529食）、特別治療食は86,922食（44.9%）であった。COVID-19感染症の影響で入院患者が減少し、延べ給食数は前年度比-18.7%（1日平均-122食）と大幅に減少した。

#### （1）献立

献立は、季節の果物や行事食（子供の日・梅雨・土用の丑の日・栄養の日・七夕・十五夜・県民の日・ハロウィン・冬至・クリスマス・お正月・七草粥・節分・バレンタインデー・ひな祭り等）を積極的に取り入れ、行事食には手作りの「メッセージカード」を添えている。

選択メニューは、一般治療食の常食の方を対象に週3日昼食と夕食の計6回実施している。主食については、治療に支障がない範囲で米飯・粥・パン・うどん・冷麦などが選べる。

今年度から血管外科のPTA（経皮的血管形成術）食を「軽食」として、他科でもオーダーできるようにした。

また、化学療法等で食思不振の患者さんに対し、通常病院給食では出すことができないカップ麺、お茶漬け、たこ焼き、炭酸飲料等のアラカルトを自由に選べる「おこのみセレクト食」を令和元年度から開始したが、今年度はメニューの見直しを行った。

#### （2）食事基準

75種類の食種を基本に、個々の患者さんの病態に合わせ、形態や嗜好に配慮した食事を提供している。栄養状態や摂食嚥下機能に応じて栄養補助食品や増粘剤を付加している。

#### （3）適温給食

食事の配膳は、温かい料理も冷たい料理も適温で患者さんに提供するために「適温配膳車」を全病棟に導入している。

#### （4）下膳車

衛生管理を徹底するため、全病棟に下膳車を導入している。

#### （5）食材料の選定

食材料は産地、メーカー等を考慮し、より安全で良質な物を選定している。

納入業者については見積合わせにより選定している。

米・牛乳については県庁の経営管理課で県立4病院一括の入札を行い決定している。

非常食、特殊食品の一部については県立4病院で共同見積りにより購入している。

## 2 栄養食事指導

患者さんや家族に対し、病態に応じた食事の自己管理ができるよう個別指導を行っている。(集団指導は、COVID-19感染症の影響で今年度は中止となった。)

例年、病院内で実施している「看護の日」イベントに栄養相談コーナーを設け、管理栄養士による栄養相談・治療食展示等を行っていたが、今年度はCOVID-19感染症の影響で中止となった。

### ①個別指導

主に心臓疾患・腎臓疾患・糖尿病など医師の指示に基づき、管理栄養士が予約制で行っている。COVID-19感染症の影響で一時的に受付を制限したが、栄養指導室にアクリル板の設置し、消毒の徹底等による感染防止策を講じて、受付の制限は解除した。

令和2年度の入院・外来の個別指導件数は延べ829件であった。

### ②集団指導

心不全教室、心臓カテーテルパスによる集団指導は、今年度はCOVID-19感染症の影響で個別指導に振り替えて実施した。

## 3 栄養委員会

栄養委員会は、患者給食の適切な栄養管理と円滑な運営をはかるため設置されており、医局・看護部・事務局・栄養部から選出された委員で構成され年3回開催している。

## 4 NST (栄養サポートチーム)

NSTは、個々の入院患者さんの栄養状態をスクリーニングし、リスクが高い患者さんについて栄養の投与方法や栄養強化を提案し、栄養状態の改善に努めている。メンバーは医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士、事務などの多職種から構成され、NSTカンファレンス(毎週1回)、NST会議(月1回)を実施している。令和2年度のNSTカンファレンスは37回、延べ対象者数は95人であった。

## 5 チーム医療

褥瘡、フットメディカル、心不全ケア、緩和、喘息・COPD、ICTの各チーム、委員会に参加している。今年度は、摂食嚥下支援チームが準備期間を経て本格的に活動を開始した。

## 6 合同カンファレンス

### ①病棟カンファレンス

全12病棟中、10病棟のカンファレンスに参加している。

### ②診療科別カンファ

腎内カンファ、心不全カンファ、透析室カンファ、心臓外科カンファに参加している。

## 7 入退院支援

入退院支援センターが8月から運用開始となり、アレルギー食の対応や必要な方の特別食の調整、および栄養食事指導の予約調整等を、センターの依頼で66件行った。

## 第3節 感染症対策業務

当センターは良質で高度な先進医療を安全に提供することを使命とする病院である。院内感染を未然に防止するとともに、ひとたび感染症が発生した際には拡大防止のためにその原因を速やかに特定して、これを制圧、終息させることが重要である。

当センターの感染管理は、決定機関である Infection control committee : ICC を頂点に、その下部組織として感染対策を実施する実働部隊の Infection control team : ICT が設置されている。ICT は院内の全ての部門との連携を図り、各病棟から選出された感染制御リンクナースと協働し組織横断的に活動している。感染症対策部は、医師、感染管理認定看護師、薬剤師、検査技師で構成されており、これらの活動を主導している。

### 1 ICT 活動報告

#### (1) 薬剤耐性菌 (MRSA 等) 対策

厚生労働省サーベイランス事業 (以下 Japan nosocomial infections surveillance : JANIS) の全入院患者サーベイランス及び検査部門サーベイランスに参加している。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 等の主要な薬剤耐性菌による感染症患者の発生に関するデータを継続的に収集・解析し、感染拡大防止策の介入を行った。薬剤耐性菌による感染症が発生した場合は、随時細菌検査室や病棟からの報告を受け、病棟、外来、カテーテル室、放射線部等の関係部署に対して感染経路別予防策の実施を依頼・指導した。また、医師、看護師、薬剤師、検査技師で院内各部署のラウンドを実施し、院内感染事例の把握や感染予防策の指導を行った。この他感染症レポートを作成し、毎月全職員へ報告している。

#### (2) 抗菌薬適正使用への取り組み

ICC の下部組織として、抗菌薬適正使用支援チーム (以下 Antimicrobial stewardship team : AST) を設置している。AST は医師 1 名、感染管理認定看護師 1 名、薬剤師 3 名、検査技師 2 名で構成し、AST ラウンドを実施している。ラウンドでは、カルバペネム系抗菌薬や抗 MRSA 薬の使用状況をモニタリングし、治療方針を評価している。抗菌薬の変更が必要な場合は医師へ提案するとともに、抗菌薬の選択に際し医師からの相談に応じた。また、特定抗菌薬は使用届出制とし、届出数の増加に取り組んでいる。その他、当センターの薬剤感受性を算出し、職員へ公開している。

#### (3) サーベイランス (医療器具関連・手術部位感染・手指衛生) の実践

##### ア 医療器具関連サーベイランス

JANIS の集中治療部門 (ICU) に参加しており、人工呼吸器関連肺炎、カテーテル関連血流感染症、尿路感染症のサーベイランスを行った。サーベイランス結果は適宜職員へフィードバックした。

##### イ 手術部位感染サーベイランス

全ての手術を対象に手術部位感染サーベイランスを実施し、JANIS へ報告している。SSI 発生時は感染対策や治療について医師やその他職員と検討を行った。

##### ウ 手指衛生サーベイランス

アルコール手指消毒剤及び手洗い石鹸の使用量から、1 患者 1 日あたりの手指衛生回数を算出し、3 ヶ月ごとに ICC、ICT、感染制御リンクナース会議でフィードバックした。



#### (4) 環境ラウンドに関する取り組み

毎月1回のICT環境ラウンド、不定期に感染管理認定看護師によるラウンドを実施した。また、リンクナースを中心に週1回環境整備強化日を設定し、病棟内の環境整備を行った。改善が乏しい部署については、感染管理認定看護師が直接改善策を提案、指導した。

#### (5) 職業感染防止

##### ア 結核感染防止

クオンティフェロン（QFT）検査にて、全職員のQFTベースラインを把握している。新規採用者および異動者は採用時にQFT検査を実施し、結核患者に接触するハイリスク職員は毎年実施している。一般病棟での結核患者の発生はなかった。

##### イ 針刺し、血液曝露対応

針刺し、切創、皮膚・粘膜曝露は16件報告された。16件中汚染された器材での針刺しは8件、清潔な器材による切創が2件報告された。咬傷を含む皮膚・粘膜曝露は6件報告された。

##### ウ ワクチンの接種

インフルエンザワクチンやB型肝炎ウイルスワクチンの他、流行性4種ワクチンの接種を行った。また、新型コロナウイルスワクチンの医療従事者接種を院内職員の他、近隣の医療従事者や保健所職員、消防隊員などに実施した。

#### (6) 教育

	開催日	内容	対象者	参加人数
1	5月28日	新型コロナウイルス感染症 院内・施設内感染対策研修会（Web講義）	全職員	職員：28人
2	9月10日	COVID-19の最新知見と感染対策 講師：感染症対策部長 倉島一喜 感染管理認定看護師 大沢朗子 *電子カルテ上（セーフマスター）で公開	全職員	職員： 386人
3	1月18日	新型コロナウイルスワクチンについて 講師：感染症対策部長 倉島一喜 感染管理認定看護師 大沢朗子 *電子カルテ上（セーフマスター）で公開	全職員	職員： 397人

#### (7) 地域連携

感染防止対策加算1を算定する医療機関として、近隣の加算1および加算2を算定する施設と合同カンファレンスを実施した。カンファレンスでは、新型コロナウイルス感染症に関する情報交換を行った。また、新型コロナウイルス感染症受け入れ施設となった連携施設等へ、ゾーニングや感染対策に関する指導を行った。感染症発生時には感染対策等に関する相談に応じた。

加算1連携施設：深谷赤十字病院 ・ 小川赤十字病院

加算2連携施設：医療法人 桂水会 岡病院  
医療法人 蒼龍会 武蔵嵐山病院  
国民健康保険町立 小鹿野中央病院  
医療法人社団シャローム シャローム病院



## (8) 新型コロナウイルス感染症対策

### ア 感染者の入院受け入れ

埼玉県重点医療機関として、536人の新型コロナウイルス感染症患者を受け入れた。軽症から超重症患者までの診療を行い、軽快退院者は445人、転院は22人、死亡退院は45人だった。重症、超重症患者のうち、気管内挿管実施者はのべ46人、ECMO実施者は1人だった。病床は4C病棟、4B病棟、3C病棟、A4病棟、RCU、ICUを使用した。

### イ 帰国者・接触者外来の開設

保健所からの要請を受け、呼吸器内科医師、外来看護師、検査部と協働し、帰国者・接触者外来を開設した。海外からの帰国者、感染者との濃厚接触者、発熱等の症状がある人を対象に、121人の患者を受け入れた。

### ウ PCR等検査体制の整備

入院や外来患者、職員の感染者を早期に発見するため院内の検査体制を整備した。PCR検査、LAMP法検査、抗原定量検査が実施できるようになり、休日や夜間を問わず検査が行えるようになった。

また、発熱等体調不良の職員やその家族に対し積極的にPCR等検査を実施し、感染者の早期発見に努めた。

### エ 感染対策の実施

院内フェーズを作成し、流行状況に合わせて職員が円滑に業務を行えるよう整備した。また、流行状況や行政の方針等から適宜マニュアルの作成、修正、院内周知を行った。流行時には会議、研修、会食、旅行等を制限し、職員の感染や院内クラスターの予防に努めた。また、SPDと協働し个人防护具の確保を行い、適切な使用を推進した。職員が安全に診療等行えるよう、个人防护具の使用方法等の指導を行った。

### オ 地域貢献

地域の感染対策を推進するため、適宜電話やメール等で感染対策の相談対応を行った。また、クラスターが発生した高齢者施設、病院等へ出向き、感染対策のチェックや指導を行った。

## 第4節 医療安全管理業務

### 1 組織体制の確立

当センターでは患者・医療従事者の安全確保等を目的に、医療安全に関する全般的事項を審議する医療安全管理委員会を設置している。また医療安全推進に向けて実践的に活動する医療安全推進担当者会、各部門の医療安全専門小委員会、有事の医療安全管理体制を担う医療事故対策委員会を設置し、医療事故防止に向けた組織体制を整備している。

医療安全管理室は、医療安全管理室長、専従の医療安全管理者を配置し、医療安全管理の中心的役割を担い、各部門と連携しながら医療安全の推進に努めている。

### 2 マニュアルの整備

医療安全管理指針、説明と同意（インフォームド・コンセント）マニュアル、緊急事態発生時対応マニュアル、救急カート管理マニュアル、造影剤使用基準、医療事故防止マニュアルを改訂した。

### 3 患者相談窓口の設置

医療安全管理者が医療に関する相談について対応する患者相談窓口を設置している。

令和2年度は患者相談の要望はなかった。

### 4 安全への取り組み

#### (1) 医療安全管理委員会

委員会は副病院長、各診療部（科）長、各部（科）長、事務局長、その他院長が選任する者、25名をもって構成する。

定例会を毎月最終木曜日に設定し、12回開催した。主な検討内容は、以下のとおりである。

- ア 医薬品安全管理報告
- イ 医療機器安全管理報告
- ウ 研修会の企画・結果報告
- エ 医療安全ラウンド報告
- オ 医療安全推進月間事業結果報告
- カ 緊急事態発生時の対応・コード発令方法について
- キ 救急カート管理マニュアルの改正
- ク 医療安全情報の周知
- ケ インシデント事象報告と対応策
- コ 各部門の活動報告
- サ その他

#### (2) 医療安全推進担当者会

医療安全推進担当者会は、定例会を毎月第3水曜日に設定し、12回開催した。主な検討内容は、以下のとおりである。

- ア 医療安全管理研修会の企画・運営・評価（表1）  
セーフマスターe-Learning機能を活用し、医療安全研修を全4回実施した。
- イ 医療安全推進月間事業  
毎年11月は厚労省が定める医療安全週間に合わせて医療安全月間としてイベントを企画している。令和2年度は医療安全推進月間ポスターの掲示や、全職員の名札に医療安全の緑

色リボンシールを貼付し啓蒙活動を実施した。

患者参加の医療安全を推進するため「患者さんへメッセージかるた」に取り組み、職員から標語を募集した。

ウ 医療安全ラウンド

手術室医療安全ラウンドを実施し、手術前後のタイムアウトについてチェック表を用いて評価した。

エ 医療安全に関する情報の周知徹底

毎月初日に医療安全ニュースを掲示し、医療安全カンファレンスで議題となった事象に関する情報を提供した。(全12回)

オ 医療安全通知の配布

繰り返される事象や、警鐘事例は医療安全通知として注意喚起を促した。(全19回)

カ インシデント事象報告

注目すべきインシデントや複数の部門がかかわっている事象は医療安全カンファレンスで話し合い、対策を講じた。

表1 医療安全管理研修会(感染予防のため地域公開せず)

開催日	内容	対象者	参加人数
6月26日～7月22日	第1回 Rapid Response System 講習会	全職員	592名
7月20日～8月21日	第2回 放射線検査を安全に行うために	対象者	513名
11月10日～12月10日	第3回 医薬品安全管理研修	対象者	506名
令和3年 1月8日～2月8日	第4回 輸血の安全な取り扱い	対象者	502名

(3) 医療安全管理専門小委員会

各部門又は委員会が指定する特定の課題ごとに、専門小委員会を設置している。各部門におけるインシデントの原因分析・予防策・改善策の検討や、職員に対するインシデントレポートの積極的な提出を推進する業務を実施した。

(4) 医療安全カンファレンス

医療安全管理室長、検査技術部長、放射線技術部副部長、薬剤部長、臨床工学部副技師長、看護副部長、業務部長、システム保守担当、医療安全管理者、以上9名で構成する。毎週金曜日に定例会を設定し、50回開催した。

提出されたインシデントレポートから警鐘事例を抽出し対応策の検討を行った。また、新聞報道や日本医療機能評価機構より発刊される医療安全情報に基づき院内の状況確認及び情報共有を行った。以下は検討、改善した内容の一部である。

ア 誤薬防止対策(過剰投与、過少投与、無投薬)

イ 患者誤認防止対策(外来診察時、放射線治療、検体検査、書類)

ウ 電子カルテに関連した事故防止対策

エ 検査・測定に関連した事故防止対策

オ 手術・血管カテーテル治療・透析に関連した事故防止対策

カ 転倒・転落



表2 インシデント・アクシデントの事象内訳と件数

事象	合計	インシデント	アクシデント (レベル2以上)
処方・与薬	636	538	98
ドレーンチューブ類の使用・管理	471	249	222
転倒・転落	159	42	117
検査	251	222	29
療養の世話	116	62	54
治療・処置	98	45	53
食事	51	46	5
手術	46	42	4
その他	436	360	76
計	2,264	1,606	658

表3 インシデント・アクシデントの職種別報告状況

職種	合計	インシデント	アクシデント (レベル2以上)
看護師	2,005	1,390	615
医師	29	7	22
放射線技師	36	31	5
薬剤師	61	60	1
検査技師	61	59	2
臨床工学士	18	12	6
理学療法士	14	7	7
栄養士	29	29	0
その他	11	11	0
計	2,264	1,606	658

表4 インシデント・アクシデントの時間帯別の発生状況

時間帯	合計	インシデント	アクシデント (レベル2以上)
0～1時台	63	36	27
2～3時台	57	22	35
4～5時台	68	38	30
6～7時台	141	91	50
8～9時台	335	253	82
10～11時台	390	301	89
12～13時台	265	203	62
14～15時台	238	160	78
16～17時台	308	235	73
18～19時台	184	128	56
20～21時台	113	77	36
22～23時台	90	57	33
不明	12	5	7
合計	2,264	1,606	658

## 第5節 地域医療連携・入退院支援センター業務

令和2年4月1日地域医療連携室に「入院支援」の機能を新たに加え、組織名を「地域医療連携・入退院支援センター」と改名した。

地域医療連携・入退院支援センターは、近隣医療機関、開業医、訪問看護ステーション、福祉サービス機関等との連携を図るとともに、医療相談、看護相談、医療福祉相談、入退院調整業務、情報発信等の業務を行っている。他院からの診療情報に関する照会及び相談の対応、紹介元医療機関への初回受診報告及び転帰報告、県民に対する適切な診療科の受診案内、地域医療機関との連携会議など業務は多岐にわたっている。

令和2年度の職員構成は、医師1名（兼務）、主幹2名（兼務2名）、MSW4名（常勤2名・非常勤2名）、看護師9名（常勤8名・非常勤1名）、事務4名で（常勤1名・非常勤3名）であった。また、病診連携担当、患者サポート担当（患者サポート・医療福祉相談）、入退院支援担当（入院支援・退院支援看護師を配置）の業務分担をし、円滑な対応に努めた。

病診連携としては、地域の病院と患者の診療においてスムーズに連携が図れるように努めた。

患者サポート担当は、患者・家族が安心して入院中の療養生活を送ることができるようMSWによる医療福祉相談や看護師による看護相談を実施した。院内・外の相談窓口として医療機関や施設、担当部署等と連携を図り医療連携や在宅療養支援を実施した。

入院支援は患者が入院から退院まで安心・納得して医療が受けられるよう支援に努めている。令和2年度8月から入院支援を開始し、入院を予定している患者が入院生活や入院後にどのような治療経過を経るのかイメージし安心して入院医療が受けられるよう入院前からの支援を実施している。

退院支援は入院支援と連携しながら、入院初期から患者の入院前の生活状況を把握し、退院後の生活を見据えて患者・家族の思いに寄り添いながら、多職種と連携・協働しながら退院支援を実施し、入退院支援機能を充実させた。また、後方連携が円滑にいくように54施設（病院28件、訪問看護ステーション13件、施設13件）への訪問を実施した。

平成29年度から開始した「出張いきいき健康塾」は、新型コロナウイルス流行のため開催しなかった。

### 1. 地域医療連携・入退院支援センターにおける対応件数

#### 1) 病診連携（表1）

令和2年度の対応件数は4,077件であった。その中で、受診・医療相談が1,469件（約36%）で最も多かった。緊急受診による診療情報提供依頼や転院相談の問い合わせが増加しており、地域医療連携室間で連携を取りながら行った。

表1 地域医療連携室対応件数

内 容	令和2年度（実数）	令和元年度（実数）
診療情報提供・照会	1,457	1,026
受診・医療相談	1,469	1,869
経済的問題	166	141
社会的問題	458	405
心理的問題	57	47
セカンドオピニオンの相談	25	55
その他	445	300
合 計	4,077	3,843

## 2) 医療福祉相談（表1）

相談で多かったのは受診・医療相談であり、患者・家族からの相談や医療機関からの専門的な治療に関連した相談が多く、関連部署、各科医師と連携を図り対応した。

また、訪問看護・訪問診療の導入や介護支援専門員と連携しながら在宅療養支援を実施した。

経済的・社会的問題の相談は増加しており、「無保険や低所得の患者」「高齢世帯・単身世帯のため在宅介護が受けられない」などの問題が多かった。それらの問題は、高額療養費制度や限度額適用認定証の説明、介護保険など社会保障制度の情報提供で解決できたことが多かった。そのため患者・家族が社会保障制度の情報へアクセスしやすいように「いきつく情報」を適宜改定し、相談時に活用した。さらに、行政機関との合同会議、連絡調整を密に行うことで円滑に地域に繋がった。

心理的相談も増加しており、患者・家族の抱える問題が深刻かつ複雑で、長期間の関わりを要し難航する場合も多かった。必要に応じて、他機関へ連絡を取り、専門的支援に繋ぐことで解決した。

## 3) 医療機器共同利用件数（表2）

表2 医療機器共同利用件数

内 容	令和2年度	令和元年度
核医学検査依頼件数	33	51
放射線機器共同利用件数	12	12
生理検査依頼件数	2	15

医療機器共同利用件数は、他院から放射線検査及び生理検査の依頼を受けており、依頼件数は前年度と比べ31件減少した。

## 4) 入退院支援（表3）

病棟における退院支援・調整に関する対応件数及び入院支援対応件数（入院実数 5,368名）

表3 入院支援対応件数及び退院支援・調整に関する対応件数

内 容	令和2年度	令和元年度
入院支援介入件数	809	—
退院支援介入件数	1202	1201
内訳) 転院支援	520	462
在宅支援	574	586
介護支援等連携指導カンファレンス実施	84	215
退院時共同指導カンファレンス実施	44	96

入院支援は、令和2年4月に入退院支援センターを設置（看護師2名配置）し、準備期間を経て8月から手術目的の入院患者へ入院支援業務を開始し、その後徐々に全診療科に拡大した。令和2年度の入院支援件数は809件であり、入院支援介入率は、予定入院患者の62%であった。

また、医師、薬剤師、栄養士、MSW、外来・病棟・退院支援看護師との院内連携や院外連携により、入院前から必要な情報の共有と必要な在宅支援の強化に繋がられるように努めた。



退院支援の介入件数は、年々増加傾向にある。急性期治療後の転院患者は回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟共に増加している。

院外連携においては、退院支援看護師が患者の入院前の生活や、介護支援の状況を介護支援専門員や訪問看護師から積極的に情報収集し、在宅支援に向けて入院直後から退院後の生活を見据えて介護保険の利用や在宅医療調整等を実施することができた。今年度は、COVID-19の影響で面会制限等もあり、院外関係者との対面を最小限にしたため、カンファレンス件数は減少した。そのため、入院中に行われていた医療・看護を退院後も継続でき、在宅療養に必要な支援の調整を積極的に訪問看護師や介護支援専門員等と連携し、適宜情報交換をしながら退院後の医療・介護・福祉の切れ目ない在宅療養支援に繋げることができるよう努めた。

## 2 出張いきいき健康塾

出張いきいき健康塾は、新型コロナウイルス流行のため開催しなかった。

## 第6節 診療材料等管理業務

備品及び診療材料等を適正に選定又は採用するため、備品・診療材料選定委員会を設置している。

令和2年度は31回の委員会を開催し、32件の備品選定を行うとともに、下表のとおり、診療材料及び試薬の採用・削除について審議・検討を行った。

また、平成25年10月1日からはSPDを開始し、平成30年8月1日より株式会社栗原医療器械店に診療材料・試薬（医薬品に該当するもの等を除く）の購入と供給を委託した。（契約期間令和3年9月30日まで）

### 【診療材料等の採用件数】

種 類	新 規 採 用	緊急規程適用承認
診療材料	88 件	0 件
試 薬	43 件	0 件

### 【診療材料等SPD委託品目数】

削 除 品 目 数	80 品目
採 用 品 目 数	1,123 品目
令和2年度末総品目数	8,295 品目

## 第7節 図書室の業務

### 図書室の状況

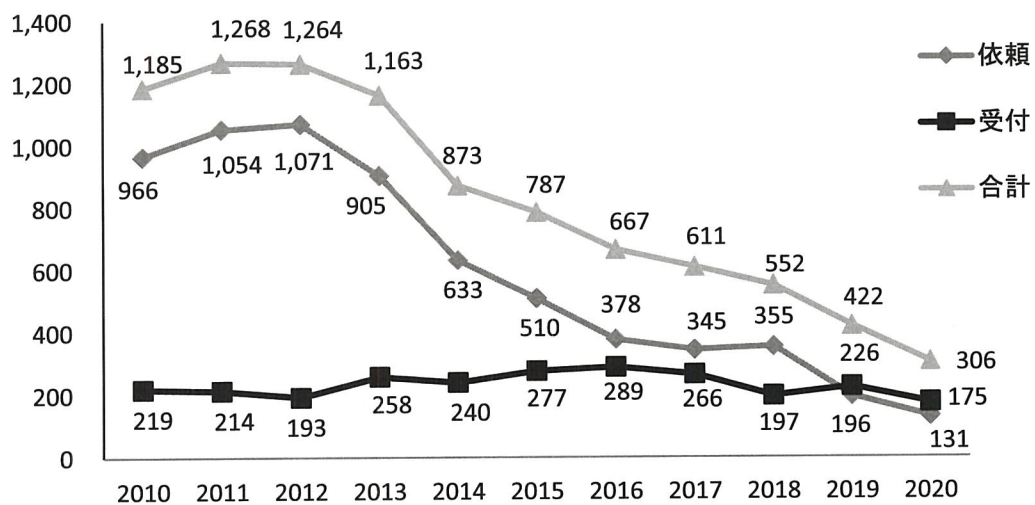
#### 1 蔵書数

資料区分	蔵書数	令和2年度受入数	令和2年度受入雑誌数 (タイトル数)
単行本	9,923冊	123冊	洋雑誌29誌※
ビデオ・DVD	509本	0本	
製本雑誌	12,915冊	92冊	和雑誌84誌※

※電子ジャーナルを含む

#### 2 文献相互貸借の推移

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
依頼	966	1,054	1,071	905	633	510	378	345	355	196	131
受付	219	214	193	258	240	277	289	266	197	226	175
合計	1,185	1,268	1,264	1,163	873	787	667	611	552	422	306





第2編  
研究編

# 第1章 研究施設における研究

## 1. はじめに

県民の希望する先進医療を実践するために、本センターが循環器、呼吸器疾患に関する日本有数の医療機関になるには、世界的レベルで評価される新しい診断や治療の技術を開発していく必要がある。

本研究施設は、これを目標として以下のような基本方針を掲げ、本センターの活動の一端を担っている。

## 2. 運営方針

### 2. 1 基本方針

- ・ つねに世界の最先端を目指し、独創性が高く、波及効果の大きい研究を行う。
- ・ 臨床への応用を目指したテーマを中心に研究活動を行う。
- ・ 医師や技師が創造性を最大限に発揮できるように支援する。

### 2. 2 運営方針概要

1. 国内外の研究ネットワークを構築し、大学等の他の研究機関と共同研究を積極的に行うことで研究の活性化と迅速化を図る。
2. 実用性の高い研究については、製品化を考慮すると企業との共同研究が必須となるため、これに見合った共同研究システムを構築していく。
3. 理工学系の研究スタッフの参加により、従来の医療スタッフだけでは実行不可能だった研究を実施できる支援体制を作る。

具体的には以下のようなことを行っている。

- ・ 研究テーマの選定に関して助言をする。
  - ・ 研究計画に対して工学的側面から助言する。
  - ・ 市販品にはない特殊な研究機器を試作する。
  - ・ 計測システムに関して助言または構成の支援をする。
  - ・ シミュレーション等により実験結果を理論面から予測する。
  - ・ 実験結果の解析手法に関して技術的な支援をする。
  - ・ 実験結果に対して工学的側面から考察を加える。
  - ・ 工学的側面の強い研究においては単なる支援に止まらず共同で研究を行う。
  - ・ 研究を円滑に進めるために研究ネットワークを利用して、研究内容に見合った外部機関の研究協力者（大学、公立研究機関等の人材）を紹介する。
  - ・ 若手医師や技師に研究活動に関連した一般知識（研究活動のしかた、論文作成発表手順等）の教育と援助を行う。
  - ・ 医師や技師が知っておくべき工学分野の知識を伝達する。
  - ・ 医学に関連した工学分野におけるトピックスを提供する。
4. センターに勤務する医師や技師の研究計画は、原則としてセンター内公募とし、研究委員会にて採否を決定する。
  5. センター外の研究者が当施設を利用して学術的に意義のある研究をしたい場合も、当センター医療職員との共同研究として公募研究の場合と同様に扱う。
  6. 研究のカテゴリーを以下のように分類し、実験研究の目標を明確化する。
    - a) 新奇性・独創性が高い研究（世界初か否かを問う）
    - b) 質的波及効果が高い研究
    - c) 量的波及効果が大きい研究

- d) 従来の方法の理論面からの研究
  - e) 実践的効果がある実験
  - f) 教育的効果がある実験
7. 研究成果の最終評価を厳しく行い、成果獲得のための投資効率を高める。
  8. 研究で得られた成果は、報告書にまとめ、また報告会を開くことで、だれもがアクセスできるよう管理する。
  9. 動物実験はすべて NIH 基準を満足させることを条件とする。

### 3. 研究概要

令和 2 年度に行われた公募研究を含めた主要研究テーマ及び研究内容の概略を以下に示す。

これらの研究は、まだ研究を開始したばかりで実験系の確立を試みている段階のものもあるが、独創性の高いものや、実用性の高いものが多く、今後の成果が期待される。

#### 持続的硬膜外腔脊髄冷却システム

大動脈瘤手術の深刻な合併症である対麻痺を回避する目的で開発した持続的硬膜外腔脊髄冷却システムは、長年にわたる動物実験で満足のいく結果を示すことができた。この成果をもとに世界初の臨床応用を目指して、システムの性能面や安全面でなお一層の向上を図るべく検討を進めた。カテーテルの経皮的挿入を実現し、胸部大動脈瘤手術例に適用して、その安全性、有用性を確認しつつあり、対麻痺の発生回避率はきわめて高い。過去に類型を見ない新技術であり、現在、医師主導の臨床治験から本邦 PMDA（米国の FDA に相当）主導の治験への移行期である。工学的側面から冷却システムのメカニズムをコンピュータにより解析し、冷却効果の裏付けを進めている。最終的に製造承認を得て、臨床に送り出すべく鋭意検討中である。将来は脊髄外傷による四肢麻痺などの治療にも応用できる可能性さえ秘めていると期待している。

以下に令和 2 年度に行われた公募研究テーマを示す。

1. 冠動脈造影 CT 検査画像を用いた冠動脈血流解析 — 仮想手術による血流シミュレーションに基づいた吻合部位の検討および術後の評価 —
2. 閉塞性動脈硬化症におけるウェアラブル端末での監視下運動療法の有用性
3. 3D プリンターを用いた開窓型ステントグラフト留置における正確性の検討
4. 市中肺炎における起因菌の検討
5. 特発性肺線維症と鳥関連慢性過敏性肺炎の鑑別・診断における鳥特異抗体の有用性の検討
6. 急性経過の、間質性肺炎を思わせる臨床経過・画像を呈する症例におけるウイルス肺炎の頻度と特徴に関する検討
7. 原発性肺癌における PD-L1 発現の不均一性の研究
8. 肺癌手術に使用するエネルギーデバイスの安全性に関する検討
9. マイクロ血管吻合操作における客観的技術評価を用いた教育システムの構築
10. 脳血管障害における 3D プリンタモデルを用いた術前活用と患者満足度に関する調査
11. 脳動脈血管モデルを用いた脳血管内治療機器評価、訓練
12. 術前腎機能低下合併心臓手術患者における腎障害マーカーの変化
13. 開心術におけるケタミン少量持続投与が術後在院日数に与える影響
14. 人工心肺使用症例における急性腎障害の発生に対し尿中バイオマーカー L-FABP を使用し急性腎障害の早期予測と体外循環操作の改善が可能か検討
15. 有限要素法を用いた脊髄冷却カテーテルの冷却効果のコンピュータシミュレーション解析およびブタモデルによる実験的検討



## 第2章 病院における研究等

### 1 著書

#### 循環器内科

Successful guidewire crossing via collateral channel at retrograde percutaneous coronary intervention for chronic total occlusion: the J-Channel score.

Nagamatsu W1, Tsuchikane E, Oikawa Y, Sumitsuji S, Igarashi Y, Yoshikawa R, Muto M, Okada H, Katoh O

Eurointervention : 03 Apr 2020, 15(18):e1624-e1632, DOI: 10.4244/eij-d-18-00993 PMID: 31012850

サルコイドーシス：最新の話題-世界サルコイドーシス・肉芽腫性疾患学会（WASOG）

心臓サルコイドーシス Symposium 6（解説/特集）

寺崎 文生, 吉永 恵一郎, 中島 崇智, 草野 研吾 呼吸器内科

（1884-2887）38 巻 6 号 Page 497-504（2020 年 12 月）

#### 血管外科

ステントグラフト内挿術マニュアル 腹部編. 森下清文 編者. 日本醫事新報社. 2020.9  
墨誠, 清水理葉. Migration.

ステントグラフト内挿術マニュアル 腹部編. 森下清文 編者. 日本醫事新報社. 2020.9  
墨誠, 清水理葉. アクセストラブル.

下肢閉塞性動脈硬化症 血行再建ガイド. 2020 : 91-102.

村上友梨, 前田剛志, 大木隆生. 血管内治療② 大腿膝窩動脈. 古森公浩 編.

日常診療に活かす診療ガイドライン UP - TO - DATE 2020 - 2021. 2020 : 232 - 6

村上友梨, 前田剛志, 大木隆生. III 循環器疾患 14 大動脈瘤・大動脈解離. 門脇孝, 小室一成, 宮地良樹 編.

#### 呼吸器内科

石黒卓 : COVID-19 の診断および治療 その他の治療 : 臨床雑誌 内科;2021:127(1):83~85

倉島一喜 : COVID-19 の病態・診断・治療 各施設の対応 埼玉県立循環器・呼吸器病センター : 別冊呼吸器ジャーナル : 2021:158-161

#### 呼吸器外科

高橋伸政 : 自動縫合器の選択 気管支. 宮澤光男, 内視鏡外科手術 役立つテクニック 100. 東京 : 医学書院, 2020:173-174

## 脳神経外科

Kikkawa Y, Kurita H. Management of wide-necked basilar tip aneurysms. In: Kato Y and Ansari A (eds), Cerebrovascular Surgery- Controversies, standards and advances, Springer-Verlag Italia, Milano, 2021; (in press).

吉川雄一郎：CEAにおけるプラーク剥離と血管縫合について．大宅宗一，竹田理々子（編），脳神経外科手術：基本手技のバリエーション，メディカ出版，大阪（印刷中）

吉川雄一郎：若手の教育－若手の顕微鏡下手術における指導的助手の役割－．大宅宗一，竹田理々子（編），脳神経外科手術：基本手技のバリエーション，メディカ出版，大阪（印刷中）

柴田碧人，栗田浩樹：脳動脈瘤．Current Decision Support. 永井良三，大曲貴夫，神田善伸他（編），プレジジョン，東京，2020

柴田碧人，栗田浩樹：未破裂脳動脈瘤．永井良三，大曲貴夫，神田善伸他（編），お医者さんオンライン．プレジジョン，東京，2020

## 放射線技術部

大澤 伸：月刊インナービジョン 2020年12月号特集 ニューノーマル時代の診療放射線技師をめざして「医療の高度化に応える専門技師認定制度を考える」

チーム医療を支える専門技師認定制度ガイド 血管診療技師（CVT） 2020.12

## 2 論文

### 血管外科

墨 誠. 腹部ステントグラフト内挿術(EVAR)の Tips and Tricks. 日本血管外科学会雑誌 29 巻 2 号 Page93-98(2020.)

清水理葉, 墨誠, 大木隆生. 感染性腹部大動脈瘤に対して腹部ステントグラフト内挿術を bridge surgery とした大腿静脈グラフトによる腹部大動脈置換術の 1 例、日本血管外科学会雑誌. 2020. 29(5)319-323.

### 心臓外科

Triangular resection versus folding repair for simple posterior mitral leaflet lesions : case control study. Ken Nakamura, et al. Cardiovasc Diagn Ther 2020;10(6):1839-1846.

Successful sparing approach between the ascending aorta and main pulmonary artery to the giant coronary aneurysm of the left main coronary artery. Ken Nakamura, et al. BMJ Case Rep 2020;13:e234203.

### 呼吸器内科

Yuto Akiyama, Takashi Ishiguro, Ryuji Uozumi, Takashi Nishida, Yoichi Kobayashi, Noboru Takayanagi ; Specific pathogens as predictors of poor long-term prognosis after hospital discharge for community-acquired pneumonia : Respir Med. 2021;176:106279.

Taisuke Isono, Naho Kagiya, Kenji Takano, Chiaki Hosoda, Takashi Nishida, Eriko Kawate, Yoichi Kobayashi, Takashi Ishiguro, Youtaro Takaku, Kazuyoshi Kurashima, Tsutomu Yanagisawa, Noboru Takayanagi : Outcome and risk factor of immune-related adverse events and pneumonitis in patients with advanced or postoperative recurrent non-small cell lung cancer treated with immune checkpoint inhibitors : Thorac Cancer. 2021 Jan;12(2):153-164.

Chiaki Hosoda, Takashi Ishiguro, Yoshihiko Shimizu, Hirokazu Kanegane, Noboru Takayanagi : Mycobacterium genavense Infection Presenting as an Endobronchial Polyp and Upper Lobe Atelectasis : Am J Respir Crit Care Med 2020 Dec 1;202(11):e144-e145.

Koichiro Asano, Akira Hebisawa, Takashi Ishiguro, Noboru Takayanagi, Yasuhiko Nakamura, Junko Suzuki, Naoki Okada, Jun Tanaka, Yuma Fukutomi, Shigeharu Ueki, Koichi Fukunaga, Satoshi Konno, Hiroto Matsuse, Katsuhiko Kamei, Masami Taniguchi, Terufumi Shimoda, Tsuyoshi Oguma, Japan ABPM Research Program : New clinical diagnostic criteria for allergic bronchopulmonary aspergillosis/mycosis and its validation : J Allergy Clin Immunol. 2021 Apr;147(4):1261-1268.e5.

Takashi Ishiguro 1, Kenji Takano 1, Naho Kagiya 1, Chiaki Hosoda 1, Yoichi Kobayashi 1, Yotaro Takaku 1, Naomi Takata 2, Miyuki Ueda 2, Yasuhiro Morimoto 1, Keisuke Kasuga 1, Ryota Ozawa 1,



Taisuke Isono 1, Takashi Nishida 1, Eriko Kawate 1, Yasuhito Kobayashi 3, Yoshihiko Shimizu 3, Kazuyoshi Kurashima 1, Tsutomu Yanagisawa 1, Noboru Takayanagi 1 : Clinical course and findings of 14 patients with COVID-19 compared with 5 patients with conventional human coronavirus pneumonia : *Respir Med Case Rep.* 2020;31:101207

Yasuhiro Morimoto, Takashi Ishiguro, Keisuke Kasuga, Kenji Takano, Ryota Ozawa, Taisuke Isono, Yuto Akiyama, Yasuhito Kobayashi, Yoichi Kobayashi, Yoshihiko Shimizu, Noboru Takayanagi : Two Cases of Primary Rhinovirus Pneumonia with Multiple Pulmonary Nodules : *Intern Med.* 2021 Feb 1;60(3):435-439.

Shun Shibata, Takashi Ishiguro, Yasuhito Kobayashi, Mayumi Koike, Tsuyoshi Numano, Yoshihiko Shimizu, Noboru Takayanagi : High incidence of false-positive results of IgG antibody against SARS-CoV-2 with rapid immunochromatographic antibody test due to human common cold coronavirus infection : *Respir Med Case Rep.* 2020 Jul 25;31:101180.

Masami Yamada, Noboru Takayanagi, Hideaki Yamakawa, Takashi Ishiguro, Tomohisa Baba, Yoshihiko Shimizu, Koji Okudela, Tamiko Takemura, Takashi Ogura : Amyloidosis of the respiratory system: 16 patients with amyloidosis initially diagnosed ante mortem by pulmonologists : *ERJ Open Res.* 2020 Jul 27;6(3):00313-2019.

Yuri Baba, Takashi Ishiguro, Mina Gochi, Yoshihiko Shimizu, Noboru Takayanagi : A 72-Year-Old Woman With Respiratory Failure and Bilateral Ground-Glass Opacities : *Chest.* 2020 Jul;158(1):e41-e45.

Kyuto Odashima, Naho Kagiya, Tetsu Kanauchi, Takashi Ishiguro, Noboru Takayanagi : Incidence and etiology of chronic pulmonary infections in patients with idiopathic pulmonary fibrosis : *PLoS One.* 2020 Apr 3;15(4):e0230746.

Chiaki Hosoda, Takashi Ishiguro, Yasuhiro Morimoto, Atsuki Furube, Taisuke Isono, Yoshihiko Shimizu, Noboru Takayanagi : Remitting Seronegative Symmetrical Synovitis with Pitting Edema Syndrome Complicated with Organizing Pneumonia : *Intern Med.* 2020 Apr 15;59(8):1065-1069.

Jun Tanaka, Akira Hebisawa, Tsuyoshi Oguma, Katsuyoshi Tomomatsu, Junko Suzuki, Hiroshige Shimizu, Yoshinori Kawabata, Takashi Ishiguro, Noboru Takayanagi, Soichiro Ueda, Koichi Fukunaga, Masami Taniguchi, Junya Ono, Shoichiro Ohta, Kenji Izuhara, Koichiro Asano : Evaluating serum periostin levels in allergic bronchopulmonary aspergillosis : *Allergy.* 2020 Apr;75(4):974-977.

高久洋太郎、倉島一喜、石黒卓、鍵山奈保、沼野剛、小池真由美、横田進、高野賢治、磯野泰輔、西田隆、河手絵理子、細田千晶、小林洋一、柳澤勉. 新型コロナウイルス肺炎患者における抗体検査の検討 *感染症学会雑誌.* 2020;94(4):495-499

倉島一喜、鍵山奈保、石黒卓、春日啓介、森本康弘、小澤亮太、高野賢治、磯野泰輔、西田隆、河手絵理子、細田千晶、小林洋一、高久洋太郎、高柳昇、柳澤勉. 新型コロナウイルス肺炎患者における重症化因

子の検討. 感染症学会雑誌. 2020;94(4):483-489

小島彩子、石黒卓、山田真紗美、高久洋太郎、鍵山奈保、高柳昇. ニューマトセルを形成したインフルエンザウイルス・黄色ブドウ球菌による肺炎の1例. 日本呼吸器学会誌 : 2019;8(5):322-326

河手絵理子、石黒卓、大楠美佐子、亀井克彦、清水禎彦、高柳昇. *Cryptococcus gattii* による肺クリプトコッカス症の1例. 日本呼吸器学会誌 : 2020;9(5):355-359

## 放射線科

Takashi Ishiguro, Kenji Takano, Naho Kagiya, Chiaki Hosoda, Yoichi Kobayashi, Yotaro Takaku, Naomi Takata, Miyuki Ueda, Yasuhiro Morimoto, Keisuke Kasuga, Ryota Ozawa, Taisuke Isono, Takashi Nishida, Eriko Kawate, Yasuhito Kobayashi, Yoshihiko Shimizu, Kazuyoshi Kurashima, Tsutomu Yanagisawa, Noboru Takayanagi. Clinical course and findings of 14 patients with COVID-19 compared with 5 patients with conventional human coronavirus pneumonia. *Respir Med Case Rep.* 2020; 31 31(3):101207

高田直美、上田みゆき、叶内哲、高橋伸政、清水禎彦. 気腔の拡張を伴った結節性リンパ組織過形成の1例. 臨床放射線66:101-104,2021

## 呼吸器外科

Yuichi Saito, Nobumasa Takahashi, Atsuka Matsui, Satoru Michiyuki, Yoshikane Yamauchi, Yoshihiko Shimizu, Eishin Hoshi, Yukinori Sakao, Masafumi Kawamura. Comparative study of the loop-mediated isothermal amplification method and the QIAGEN theascreen PCR kit for the detection of EGFR mutations in non-small cell lung cancer. *J Thorac Dis.* 2021;13(2):743-753

高田直美、上田美幸、叶内 哲、高橋伸政、清水禎彦; 気腔の拡張を伴った結節性リンパ組織過形成の1例. 臨床放射線 66(1): 101-104, 2021

## 脳神経外科

<英文>

Kikkawa Y, Kamide T, Takeda J, Shibata A, Komine H, Neki H, Suzuki K, Takeda R, Kurita H : Dome deformation technique using a fenestrated clip for large/giant cerebral aneurysms; a technical note. *Acta Neurochirurgica (Wien)* (in press) (原著論文)

Kayahara T, Kikkawa Y, Kamide T, Komine H, Suzuki K, Shibata A, Ikeda S, Ikeda T, Kurita H:

Predictors of subacute hematoma expansion requiring surgical evacuation after initial conservative treatment in patients with acute subdural hematoma. *Acta Neurochirurgica (Wien)*. 162: 357-363; 2020. (原著論文)

Maeda T, Kamide T, **Kikkawa Y**, Kurita H, Koyama S: Incidence, predictors, and outcome of calcified cerebral emboli detected in patients who underwent endovascular procedures. *Clinical Neurology and Neurosurgery*. 192: 105715; 2020. (原著論文)

Yoshikawa S, Kamide T, **Kikkawa Y**, Suzuki K, Ikeda T, Kohyama S, Kurita H: Long-term outcomes of elderly patients with poor-grade aneurysmal subarachnoid hemorrhage. *World Neurosurgery*. 144: e743-e749; 2020. (原著論文)

Onodera K, Kamide T, Kimura T, Tabata S, Ikeda T, **Kikkawa Y**, Kurita H: Identification of prognostic factors in surgically treated patients with acute epidural hematoma. *Asian Journal of Neurosurgery*. 15: 532-536; 2020. (原著論文)

Kimura T, Kamide T, Onodera K, Tabata S, **Shibata A**, Takeda R, Ikeda T, **Kikkawa Y**, Iihoshi S, Koyama S, Kurita H: Clinical features of neurogenic pulmonary edema in patients with subarachnoid hemorrhage. *World Neurosurgery*. 135: e505-e509; 2020. (原著論文)

Sato H, Kamide T, **Kikkawa Y**, Kimura T, Kuribara S, Yanagawa T, Suzuki K, Ikeda T, Kurita H: Clinical characteristics of ruptured intracranial aneurysm in patients with multiple intracranial aneurysms. *World Neurosurgery*. 149: e935-e941; 2021. (原著論文)

Take Y, Kamide T, Ikeda T, **Kikkawa Y**, Kurita H: Current treatment options and prognostic factors for ruptured distal anterior cerebral artery aneurysms. *Surgical Neurology International*. 12: 171; 2021. (原著論文)

Egashira Y, Enomoto Y, Nakayama M, Fujimura M, **Kikkawa Y**, Aihara M, Sorimachi T, Mizunari T, Iwama T: Real-world treatment results for ruptured blood-blister aneurysm of the internal carotid artery: analysis of a Japanese nationwide multicenter study. *Neurosurgical Review*. 2021. (Online ahead of print). doi: 10.1007/s10143-021-01542-0. (原著論文)

Sato H, Ooigawa H, **Kikkawa Y**, Kurita H: A case of lung cancer with osteoblastic metastasis diagnosed with visual impairment. *Interdisciplinary Neurosurgery* 2021; 25: 101244. doi.org/10.1016/j.inat.2021.101244. (症例報告)

**Shibata A**, Kamide T, Ikeda S, Yoshikawa S, Tsukagoshi E, Yonezawa A, Takeda R, **Kikkawa Y**, Kohyama S, Kurita H : Clinical and morphological characteristics of ruptured small (<5 mm) posterior communicating artery aneurysms. *Asian J Neurosurg*;16:335-9:2021 (原著論文)

**Neki H**, **Shibata A**, **Komine H**, Kohyama S, Yamane F, Ishihara S, **Kikkawa Y** : Use of flexible endoscopic aspiration for an intraventricular small floating clot with hemorrhage: a technical note. *Neurosurgical Review* ; Online ahead of print, 2020. (原著論文)



Ogura T, Kowata K, Nakajima M, Neki H, Oomori S : Nonsurgical treatment of obstructive hydrocephalus by face-down positioning: Report of four cases. *Interdisciplinary Neurosurgery* ; 20:100695, 2020 (症例報告)

<和文>

吉川雄一郎, 柴田碧人, 古峰弘之, 根木宏明, 寺西亮雄, 鈴木海馬, 上出智也, 池田俊貴, 栗田浩樹. 大型/巨大内頸動脈瘤に対する直達手術の治療成績と問題点. *脳卒中の外科*. 2022 (印刷中) (原著論文)

吉川雄一郎. 傍鞍部内頸動脈瘤のクリッピングにおける前床突起削除と硬膜輪開放 -脳動脈瘤手術レベルアップ-. *脳神経外科速報* 2020; 30: 84-89. (総説)

上出智也, 吉川雄一郎, 吉川信一郎, 鈴木海馬, 池田俊貴, 神山信也, 栗田浩樹. 高齢者最重症くも膜下出血 (GradeV) の長期的治療成績. *脳血管攣縮* 2020; 36: 53-57. (原著論文)

米澤あづさ, 水橋里弥, 根木宏明, 大塚俊宏, 山根文孝, 神山信也 : 症候性静脈灌流障害を呈する AVM に対して PTA が有効であった 1 例. *Surg Cereb Stroke(JPN)(脳卒中の外科)* ; 48 : 217-222, 2020 (症例報告)

#### 病理診断科

Kawabata Y, Tomichi T, Tanino MA, Ogura T, Kawamoto K, Fukushima F, Kurashima K, Shimizu Y. The role of eosinophils in necrosis mainly in single-system Langerhans cell histiocytosis. *J Histol Histopathol*. 2021;8:1. doi: 10.7243/2055-091X-8-1. (原著)

Tanaka J, Hebisawa A, Oguma T, Tomomatsu K, Suzuki J, Shimizu H, Kawabata Y, Ishiguro T, Takayanagi N, Fukunaga K, Taniguchi M, Ono J, Ohta S, Izuhara K, Asano K. Evaluating serum periostin levels in allergic bronchopulmonary aspergillosis. *Allergy*. 2020: Apr;75(4):974-977. DOI: 10.1111/all.14114. (原著)

Ishida H, Yasuda M, Nitanda H, Yanagihara A, Taguchi R, Yoshimura R, Umesaki T, Sakaguchi H, Shimizu Y. Pulmonary high-grade fetal adenocarcinoma associated with cystic airspace: A case report. *Thrac Cancer*. 2020: Jun;11(6): 1703-1707. doi: 10.1111/1759-7714. 13407. Epub 2020 Mar 29. PMID: 32227456. (症例)

Saito R, Kasajima A, Kawabata Y, Miki Y, Tominaga J, Tatebe S, Nakajima H, Hata S, Inoue C, Taniuchi S, Fujishima F, Watanabe M, Sato Y, Okada Y, Sasano S. Vasohibin - 1 and miR - 720 expression in diffuse pulmonary capillary hemangiomatosis - like changes associated with pulmonary hypoplasia. *Pathol Int*. 2020. Jul;70(7):470-472. (症例)

Takekoshi D, Matsui Y, Akutsu T, Nishioka A, Kiritani A, Okuda K, Watanabe J, Miyagawa H, Utsumi H, Hashimoto M, Wakui H, Minagawa S, Hara H, Numata T, Noda Y, Makishima R, Ikegami M, Kawabata Y, Araya J, Kuwano K. Dasatinib-induced Nonspecific Interstitial Pneumonia that Developed

7 years after the Initiation of Dasatinib. Intern Med. 2020 Sep 15;59(18):2297-2300. (症例)

Nogawa H, Suzuki H, Kawabata Y, Ota T, Yuki Y, Katagiri Y, Yanagawa N, Hino T, Ueki S. An unusual case of eosinophilic lung disease with multiple cyst formation. Respiratory medicine case report. 2020 Nov 19;31:101300. doi: 10.1016/j.rmcr.2020.101300. (症例)

### **検査技術部**

樋口翔大, 須江義孝, 吉岡浩明, 鳥羽里穂, 横田進

抗酸菌固形培養における喀痰前処理液アシッドプラスを用いた汚染率改善の報告

埼臨技会誌 第67巻 Page107-110 2020年

### 3 学会・研究発表等

#### 循環器内科

第 84 回日本循環器学会学術集会

The Safety and Efficacy of Retrograde Balloon Aortic Valvuloplasty Using Inoue Balloon in Patients with Severe Aortic Stenosis

Naoko Yuzawa, Yusuke Kashiwagi, Hiroaki Yamamoto, Nana Hiraki, Akira Nijjima, Akira Nonoue, Atsuki Nomura, Shinya Nagayoshi, Shinya Fujii, Kensuke Fujiwara, Takatomo Nakajima, **Takashi Miyamoto**, Makoto Muto, Kousuke Minai, Makoto Kawai, Michihiro Yoshimura

2020 年 7 月 27 日～8 月 2 日

第 84 回日本循環器学会学術集会

Inhibition of coronary atherosclerosis by direct bilirubin:

Analysis by structure equation modeling

Akira Nonoue, Kosuke Minai, Ryeonshi Kang, Ryosuke Itakura, Takatoku Aizawa, Satoshi Morimoto, Yasunori Inoue, Kazuo Ogawa, Tomohisa, Nagoshi, Takayuki Ogawa, Makoto Kawai, Michihiro Yoshimura.

2020 年 7 月 27 日～8 月 2 日

鈴木 輝彦 第 3 回 ACS 座談会

STEMI に対して Ryusei が有効であった 2 例

2020 年 11 月 12 日 Web

Get Together Conference

血行動態の破綻した閉塞性肥大型心筋症に対して、緊急 PTSCMA を施行し救命しえた一例 新島 旭, 藤井真也、野々上明、山本 裕大、平木 那奈、佐々木 和哉、池田 和也、村上彰通、鈴木輝彦、藤原堅祐、宮本敬史、中島崇智、武藤 誠

2021 年 3 月 6 日 Web

国内学会（地方会）

第 56 回日本心血管インターベンション治療学会 関東甲信越地方会

左冠動脈主幹部の無症候性心筋虚血に対する Excimer laser coronary angioplasty (ELCA)+DCB 治療を試みた一例

永吉信哉、野村充希、野々上明、藤井真也、村上彰通、鈴木輝彦、藤原堅祐、宮本敬史、中島崇智、武藤 誠

2020 年 7 月 24 日 大手町サンケイプラザ

第 56 回日本心血管インターベンション治療学会 関東甲信越地方会

ELCA に伴う冠動脈損傷の 2 症例

永吉信哉、塚田尚子、野々上明、藤井真也、村上彰通、鈴木輝彦、藤原堅祐、宮本敬史、中島崇智、武藤 誠

2020 年 7 月 24 日 大手町サンケイプラザ



第 56 回日本心血管インターベンション治療学会 関東甲信越地方会

出血性ショックで血行動態破綻した重症大動脈弁狭窄兼逆流症に対して緊急 TAVI を施行して救命し得た一例

野村充希、宮本敬史、宇野剛輝、塚田尚子、松尾圭祐、工藤雅人、藤井真也、永吉信哉、村上彰通、鈴木輝彦、藤原堅祐、中島崇智、武藤 誠

2020 年 7 月 24 日 大手町サンケイプラザ

第 56 回日本心血管インターベンション治療学会 関東甲信越地方会

武藤 誠 一般演題 口演 4 優秀演題賞選考 症例 審査員

## 血管外科

ウィンターセミナー. 岩手. 2020 年 2 月.

清水理葉, 墨誠. 右鎖骨下動脈起始異常および Kommerell 憩室を伴った大動脈解離に対し自作 scallop SG + 両側鎖骨下動脈 debranching TEVAR を行った 1 例

Japan Endovascular Treatment Conference 2020. 大阪 web. 2020 年 9 月.

墨誠. EVAR 術前コイル塞栓術の基本

Japan Endovascular Treatment Conference 2020. 大阪 web. 2020 年 9 月.

墨誠. My Strategy with Aorfix. Aorfix をどう使うか?

第 120 回 日本外科学会定期学術集会. web. 2020 年 8 月.

清水 理葉, 墨 誠, 百川 文健, 花井 信, 大木 隆生. 腹部ステントグラフト内挿術後の open conversion の検討 瘤縫縮か?人工血管置換か?

村上友梨, 小澤博嗣, 大森慎子, 瀧澤玲央, 馬場健, 宿澤孝太, 原正幸, 前田剛志, 立原啓正, 大木隆生. 瘤空置と臓器血流温存を両立する内臓動脈瘤に対するステントグラフト術の短期・長期治療成績. (ポスター)

第 50 回 日本心臓血管外科学会学術総会. web. 2020 年 8 月. 会長要望演題

清水 理葉, 墨 誠, 百川 文健, 花井 信, 大木 隆生. 腹部ステントグラフト内挿術後の破裂症例から学んだこと ~ 破裂後の経過と予防策 ~

村上友梨, 小澤博嗣, 大森慎子, 瀧澤玲央, 馬場健, 宿澤孝太, 原正幸, 前田剛志, 立原啓正, 大木隆生. 内腸骨動脈血流を温存した内腸骨動脈瘤に対するステントグラフト術の治療成績. (口演)

第 50 回 日本心臓血管外科学会学術総会. web. 2020 年 8 月. 会長要望演題

墨 誠, 清水 理葉, 百川 文健, 花井 信, 大木 隆生. 若年患者にもステントグラフト内挿術を選択して良いか?

第 15 回 Japan Endovascular Symposium. 東京 web. 2020 年 9 月. セミナー.

墨誠. Najuta の知らない世界.

第 15 回 Japan Endovascular Symposium. 東京 web. 2020 年 9 月. セミナー.

墨誠. 足の創傷をみる～難治性潰瘍における新たな選択肢 OASIS 細胞外マトリックス～.

第 40 回 日本静脈学会総会. 秋田 web. 2020 年 9 月.

清水理葉、百川文健、墨誠. 下肢静脈瘤カテーテル焼灼術における局所冷却療法はプロポフォールより有用か。

第 82 回 日本臨床外科学会. 大阪 web. 2020 年 10 月.

墨誠. EVAR 後遠隔期 Type2 エンドリークに対する経ステントグラフト塞栓術

第 1 回フットケア・足病学会. 横浜. ハイブリッド. 2020 年 11 月

墨誠. 血管外科医が JADE を使ってみて

第 48 回日本血管外科学会学術総会. web. 2020 年 11 月.

墨 誠、清水理葉、百川文健、花井信、大木隆生. 当院での腹部ステントグラフト内挿術後の open conversion の検討

村上友梨, 小澤博嗣, 大森槇子, 瀧澤玲央, 馬場健, 宿澤孝太, 原正幸, 前田剛志, 立原啓正, 大木隆生.

Initial results of the iliac branch endoprosthesis after prior repair for abdominal aortic aneurysms. (口演)

## 心臓外科

第 24 回冠動脈外科学会

Giant Saccular Aneurysm from Left Proximal Main Coronary Artery

中村賢、灰田周史、阿部貴行、花井信、織井恒安

第 180 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会

僧帽弁位人工弁周囲逆流の心房中隔壁を用いた修復経験

阿部貴行 織井恒安 花井信 中村賢 灰田周史

第 180 回 日本胸部外科学会関東甲信越地方会

成人大動脈縮窄を伴う大動脈弁狭窄症に対し手術を行った一例

灰田周史、阿部貴行、中村賢、花井信、織井恒安

第 10 回 日本心臓弁膜症学会

左室瘤を合併した乳頭筋部分断裂による僧帽弁閉鎖不全症に対して僧帽弁形成術、左室形成術を行った一症例

灰田周史、阿部貴行、中村賢、花井信、織井恒安

第 48 回 日本血管外科学会学術総会

孤立性状腸間膜動脈解離に対してバイパス手術を行った 1 例

近藤太一、ほか

## 呼吸器内科

春日 啓介、高久 洋太郎、高野 賢治、石黒 卓、森本 康弘、小澤 亮太、磯野 泰輔、西田 隆、細田 千晶、河手 絵理子、小林 洋一、鍵山 奈保、倉島 一喜、柳澤 勉、高柳 昇：EPMA 元素分析で原因物質を特定しえた Caplan 症候群の 1 例：第 239 回日本呼吸器学会関東地方会、2020 年 5 月、東京

小林 洋一、柴田 駿、中島 裕美、松井 勇磨、高野 賢治、磯野 泰輔、西田 隆、細田千晶、河手絵理子、石黒 卓、高久 洋太郎、鍵山 奈保、倉島 一喜、柳澤 勉、高柳 昇：非細菌性血栓性心内膜炎による多発脳梗塞を繰り返した進行期肺腺癌の 1 例：第 240 回日本呼吸器学会関東地方会、2020 年 7 月、東京

磯野泰輔、柴田 駿、中島裕美、松井勇磨、高野賢治、細田千晶、西田 隆、河手絵理子、小林洋一、石黒 卓、高久洋太郎、鍵山奈保、倉島一喜、柳澤 勉、河端美則、清水禎彦、高柳 昇：関節リウマチ経過中に発症したびまん性汎細気管支炎 (DPB) の 1 例：第 241 回日本呼吸器学会関東地方会、2020 年 9 月 12 日、長野

鍵山奈保、小澤 亮太、磯野泰輔、春日啓介、高野賢治、森本康弘、細田千晶、西田 隆、河手絵理子、小林洋一、石黒 卓、高久洋太郎、倉島一喜、柳澤 勉、高柳 昇：肺がん患者における静脈血栓症と動脈血栓症：第 60 回日本呼吸器学会学術講演会 2020 年 9 月、名古屋

小林洋一、鍵山奈保、春日、森本、磯辺、小澤、高野、西田 隆、細田千晶、河手絵理子、石黒 卓、高久洋太郎、倉島一喜、柳澤 勉、高柳 昇：IPF and/or 肺気腫合併の予後への影響：実臨床における非小細胞肺癌連続 1631 例の検討：第 60 回日本呼吸器学会学術講演会 2020 年 9 月、名古屋

高野 賢治、石黒 卓、森本 康弘、春日 啓介、小澤 亮太、磯野 泰輔、西田 隆、細田 千晶、河手 絵里子、小林 洋一、高久 洋太郎、鍵山 奈保、倉島 一喜、柳澤 勉、高柳 昇：気管支肺胞洗浄液を用いて診断したウイルス性肺炎の臨床・画像的検討：第 60 回日本呼吸器学会学術講演会 2020 年 9 月、名古屋

磯野泰輔、鍵山奈保、春日啓介、高野賢治、森本康弘、小澤亮太、細田千晶、西田 隆、河手絵理子、小林洋一、石黒 卓、高久洋太郎、倉島一喜、柳澤 勉、高柳 昇：進行・再発非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬 (ICIs) の免疫関連有害事象 (irAE) を含む臨床的検討：第 60 回日本呼吸器学会学術講演会 2020 年 9 月、名古屋

森本 康弘、石黒 卓、高野 賢治、春日 啓介、小澤 亮太、磯野 泰輔、西田 隆、細田 千晶、河手 絵里子、小林 洋一、高久 洋太郎、鍵山 奈保、倉島 一喜、柳澤 勉、高柳 昇：肺炎患者における低リン血症の意義に関する検討：第 60 回日本呼吸器学会学術講演会 2020 年 9 月、名古屋

石黒 卓、高野 賢治、森本 康弘、春日 啓介、小澤 亮太、磯野 泰輔、西田 隆、細田 千晶、河手 絵里子、小林 洋一、高久 洋太郎、鍵山 奈保、倉島 一喜、柳澤 勉、高柳 昇：急性経過の間質性肺疾患が疑われる症例は半数がウイルス肺炎である：第 60 回日本呼吸器学会学術講演会 2020 年 9 月、名古屋



春日 啓介、高久 洋太郎、高野 賢治、森本 康弘、小澤 亮太、磯野 泰輔、西田 隆、細田 千晶、河手 絵里子、小林 洋一、石黒 卓、鍵山 奈保、柳澤 勉、高柳 昇、倉島 一喜：COPD 増悪後の予後と予後規定因子についての後方視的検討：第 60 回日本呼吸器学会学術講演会 2020 年 9 月、名古屋

磯野 泰輔、柴田 駿、中島 裕美、松井 勇磨、高野 賢治、西田 隆、細田千晶、小林 洋一、河手 絵理子、石黒 卓、高久 洋太郎、鍵山 奈保、倉島 一喜、柳澤 勉、川端美則、清水禎彦、高柳 昇：緩徐な経過で発症した抗 MDA5 抗体陽性 CADM に伴う間質性肺炎の 1 例：第 242 回日本呼吸器学会関東地方会、2020 年 11 月、東京

西田 隆、河手 絵理子、柴田 駿、中島 裕美、松井 勇磨、高野 賢治、磯野 泰輔、細田 千晶、小林 洋一、石黒 卓、高久 洋太郎、鍵山 奈保、倉島 一喜、柳澤 勉、高柳 昇：加湿器による線維化性過敏性肺炎の 1 例：日本内科学会第 668 回関東地方会、2020 年 12 月 12 日、東京

松井勇磨、西田隆、柴田駿、中島裕美、高野賢治、磯野泰輔、細田千晶、河手絵理子、小林洋一、石黒卓、高久洋太郎、鍵山奈保、倉島一喜、柳澤勉、高柳昇：神経症状にて発症した可逆性脳梁膨大部病変を伴うレジオネラ肺炎の 1 例：第 243 回日本呼吸器学会関東地方会、2021 年 2 月、東京

柴田駿、石黒卓、中島祐美、松井勇磨、高野賢治、磯野泰輔、西田隆、細田千晶、河手絵理子、小林洋一、高久洋太郎、鍵山奈保、倉島一喜、柳澤勉、高柳昇：迅速抗体検査で SARS-CoV-2 IgG 陽性であった human coronavirus HKU1 肺炎の 1 例 - 他のウイルス肺炎例における迅速抗体検査結果：第 243 回日本呼吸器学会関東地方会、2021 年 2 月、東京

小林 洋一、松井 勇磨、柴田 駿、中島 裕美、磯野 泰輔、西田 隆、細田 千晶、河手 絵理子、石黒 卓、高久 洋太郎、鍵山 奈保、倉島 一喜、柳澤 勉、河端 美則、高柳 昇：声帯・気管に白苔の散在を認めた好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の一例：第 176 回 日本呼吸器内視鏡学会 関東支部会 2021 年 3 月 東京

石黒卓：第 241 回日本呼吸器学会関東地方会 座長

## 呼吸器外科

高橋伸政、脇本 信、堀内 翔、諸岡宏明、揖斐孝之、池谷朋彦、星 永進。挿入困難部位への EWS 挿入法の工夫 -strap guidance 法について-。第 43 回日本呼吸器内視鏡学会 2020 年 6 月 26-27 日 旭川 (紙上発表)

揖斐孝之、脇本信、堀内翔、諸岡宏明、高橋伸政、池谷朋彦、星永進。気管支断端ろうに対し気管支鏡下にて PGA シートとフィブリン糊を充填し治癒した 1 例。第 43 回日本呼吸器内視鏡学会 2020 年 6 月 26-27 日 旭川 (紙上発表)

高橋伸政、脇本 信、堀内 翔、諸岡宏明、揖斐孝之、池谷朋彦、浅沼晃三、清水禎彦、星 永進。巨大な精巣原発転移性肺腫瘍に対する側方・正中アプローチによる左肺全摘術。第 37 回日本呼吸器外科学会 2020 年 9 月 29-30 日東京 (WEB)

脇本信、堀内翔、諸岡宏明、揖斐孝之、高橋伸政、池谷朋彦、星永進。当院における胸腔内発生の孤発性

線維性腫瘍切除症例の検討。第 37 回日本呼吸器外科学会 2020 年 9 月 29-30 日東京 (WEB)

揖斐孝之、脇本信、堀内翔、諸岡宏明、高橋伸政、池谷朋彦、星永進。気胸を契機として診断に至った Birt-Hogg-Dube 症候群の 1 例。第 37 回日本呼吸器外科学会 2020 年 9 月 29-30 日東京 (WEB)

諸岡宏明、脇本信、堀内翔、揖斐孝之、高橋伸政、池谷朋彦、星永進。胸骨浸潤を認めた胸腺上皮性腫瘍手術の 2 例。第 37 回日本呼吸器外科学会 2020 年 9 月 29-30 日東京 (WEB)

澤端章好、須崎剛行、川口剛史、安川元章、高橋伸政、松谷哲行、舟木壮一郎、新谷康。広範囲肺部分切除の腫瘍学的低侵襲性。第 37 回日本呼吸器外科学会 2020 年 9 月 29-30 日東京 (WEB)

禹哲漢、安藤耕平、山本健嗣、高橋伸政、川瀬晃和、渡部克也、荒井宏雅、石川善啓、足立広幸、齋藤雄一、松谷哲行、坂尾幸則、澤端章好、益田宗孝。肺切除が行われた M1b/c 肺癌に対する臨床病理学的解析～多施設共同後方視的研究。第 37 回日本呼吸器外科学会 2020 年 9 月 29-30 日東京 (WEB)

高橋伸政、脇本 信、堀内 翔、諸岡宏明、揖斐孝之、池谷朋彦、星 永進。左房浸潤を伴う胸腺腫と僧房弁逆流症に対する同時手術。第 30 回三地区合同肺癌・呼吸器疾患研究会。山形 (WEB)

高橋伸政、脇本 信、堀内 翔、諸岡宏明、揖斐孝之、池谷朋彦、下田純子、浅沼晃三、清水禎彦、星 永進。EGFR 遺伝子変異陽性肺癌に対する免疫チェックポイント阻害剤の効果。第 61 回日本肺癌学会 2020 年 11 月 12-14 日 岡山

齋藤 雄一、堀内 翔、松井 貴香、道行 悟、山内 良兼、高橋 伸政、清水 禎彦、星 永進、坂尾 幸則、川村 雅文。Loop-mediated isothermal amplification method による EGFR 遺伝子変異の検出。第 61 回日本肺癌学会 2020 年 11 月 12-14 日 岡山

## 脳神経外科

吉川雄一郎、柴田碧人、古峰弘之、根木宏明、鈴木海馬、池田俊貴、栗田浩樹。大型動脈瘤に対する有窓クリップを用いた dome deformation technique の有効性、第 49 回日本脳卒中の外科学会学術集会 (Stroke2020) (2020/8 横浜(ハイブリッド開催))

吉川雄一郎、根木宏明、片野雄大、寺西亮雄、鈴木海馬、古峰弘之、栗田浩樹。クリッピング/コイル塞栓術後再発脳動脈瘤に対する直達手術の治療戦略、第 50 回日本脳卒中の外科学会学術集会 (Stroke2021) (2021/3 福岡(ハイブリッド開催))

柴田碧人、根木宏明、古峰弘之、吉川雄一郎：院内発症にみる急性期血行再建術 TAVI 後に発症した急性期脳梗塞に対して施行した 1 例：第 141 回 日本脳神経外科学会 関東支部会 (2020/6 東京)

柴田碧人、上出智也、根木宏明、古峰弘之、吉川雄一郎、神山信也、栗田浩樹：破裂小型内頸動脈-後交通動脈分岐部瘤の臨床および形態学的特徴：STROKE2020：第 49 回 日本脳卒中の外科学術集会 (2020/8 東京(ハイブリッド開催))

柴田碧人、根木宏明、古峰弘之、吉川雄一郎：左肺上葉切除後脳梗塞に対して血栓回収療法を施行した一



例 : 第 18 回 日本脳神経血管内治療学会 関東地方会 (2020/9 東京)

柴田碧人, 根木宏明, 古峰弘之, 吉川雄一郎 : 超高齢者急性期脳梗塞に対する機械的血栓回収療法の有効性の検討 : 第 79 回 日本脳神経外科学会学術総会 (2020/10 岡山(ハイブリッド開催))

柴田碧人, 根木宏明, 古峰弘之, 吉川雄一郎 : シモンズ型を使用した超高齢者に対する機械的血栓回収療法の有効性 : 第 36 回 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (2020/11 京都(ハイブリッド開催))

根木宏明, 柴田碧人, 古峰弘之, 吉川雄一郎 : マルチモダリティ時代の医療過疎地域における新規脳卒中センター設立の苦難 : 体制整備と新医療機器導入のバランス - 第 79 回日本脳神経外科学会総会(2020/10 岡山(ハイブリッド開催))

根木宏明, 柴田碧人, 古峰弘之, 吉川雄一郎 : 新規脳卒中センター設立の苦難 : 院内体制の整備と院内発症脳卒中への対応. 第 36 回日本脳神経血管内治療学会総会(2020/11 京都(ハイブリッド開催))

根木宏明, 柴田碧人, 古峰弘之, 吉川雄一郎 : 医療過疎地域における直接搬送患者以外の急性期機械的血管再建術の現状 -院内発症、転院搬送症例の検討-. STROKE2021 (2021/3 福岡(ハイブリッド開催))

古峰弘之, 柴田碧人, 片野雄大, 根木宏明, 吉川雄一郎 : 頸動脈狭窄病変に対する発症急性期・亜急性期の血管再建術の治療成績の検討. 第 46 回日本脳卒中学会集会・第 50 回日本脳卒中の外科学会学術集会(STROKE 2021) (2021/3 福岡(ハイブリッド開催))

橋尾 篤, 柴田碧人, 根本 慎, 古峰弘之, 根木宏明, 吉川雄一郎 : 院内発症の左肺上葉切除後脳梗塞に対して血管再建術を施行した 1 例. 第 142 回日本脳神経外科学会関東支部会 (2020/9 東京)

岩崎朗奈, 根木宏明, 柴田碧人, 古峰弘之, 吉川雄一郎 : 内頸動脈起始部閉塞による脳梗塞に対して CAS 単独で治療可能な症例の特徴. 第 80 回日本脳神経外科学会総会(2020/10 岡山(ハイブリッド開催))

岩崎朗奈, 根木宏明, 片野雄大, 古峰弘之, 吉川雄一郎 : 内頸動脈起始部閉塞による脳梗塞に対して CAS 単独で治療可能な症例の特徴. 第 47 回日本脳卒中学会集会・第 51 回日本脳卒中の外科学会学術集会(STROKE 2022) (2021/3 福岡(ハイブリッド開催))

栗原聖治, 根木宏明, 前田拓真, 片野雄大, 吉川雄一郎 : 左肺上葉切除後に発症した脳梗塞に対して血栓回収療法を施行した 1 例. 第 269 回 埼玉脳神経外科懇談会 (2021/2 Web 開催)

谷川大介, 古峰弘之, 岩崎朗奈, 柴田碧人, 根木宏明, 吉川雄一郎 : 慢性硬膜下血種の再手術に関わる因子の検討. 第 79 回日本脳神経外科学会学術総会 (2020/10 岡山(ハイブリッド開催))

櫻田冴響, 柴田碧人, 古峰弘之, 片野雄大, 根木宏明, 吉川雄一郎 : 頭痛で発症した若年性中大脳動脈解離性動脈瘤の一例. 第 143 回日本脳神経外科学会関東支部会 (2020/12 東京)

## 麻酔科

日本麻酔科学会第 67 回学術集会  
2020 年 6 月 5 日 (金)

開心術におけるケタミン少量持続投与が術後在院日数に与える影響:後ろ向き研究  
白田 岩男 1、三田 範勝 1、前田 隆求 1、加賀谷 慎 1、三好 壮太郎 1  
1:埼玉県立循環器・呼吸器病センター

### 病理診断科

大塚重則, 須藤結花, 林田ひろみ, 白水健士, 堀 慎一, 清水 謙, 鈴木雅子, 清水禎彦. ワークショップ6 頸部腺系病変の早期発見. 頸部腺系病変の早期発見—頸部早期腺癌の多彩な組織像について—. 第61回日本臨床細胞学会総会(春期大会). 2020年6月20日-7月19日(Web開催).

沼上秀博, 舟橋光政, 宮川芽依, 鳥羽里穂, 清水禎彦. 肺腸型腺癌の1例. 第34回関東臨床細胞学会学術集会. 2020年10月22日-11月4日(Web開催).

### リハビリテーション科およびリハビリテーション部

洲川明久 当センターにおける MitraClip 症例のリハビリテーション介入 2020.8.20 第57回リハビリテーション医学会学術集会 京都

### 放射線技術部

田島修, 武藤誠:左冠動脈主幹部(LMT)急性心筋梗塞(AMI)に対する再灌流療法(PCI), 直近5年間の成績, 第29回日本心血管インターベンション治療学会, 2021.2, 仙台 web.

### 検査技術部

吉野 淳樹, 沼野 剛, 小池真由美, 横田 進  
新型コロナウイルス感染症における抗体検査陽性化時期と重症化因子の検討  
第48回埼玉県医学検査学会 2020年12月6日 さいたま市

沼上秀博, 舟橋光政, 宮川芽衣, 鳥羽里穂, 清水禎彦  
肺腸型腺癌の一例  
第34回関東臨床細胞学会 2020年10月22日~11月4日 Web開催

### 薬剤部

杉田英章, 柳田絢子, 山田惣一郎, 仙波秀彦, 幸田真由美, 石黒卓, 三宮忠 結核病棟における病棟薬剤師の常駐化及び 病棟薬剤業務実施加算の導入について 2020.10 日本病院薬剤師会関東ブロック第50回学術大会



## 看護部

野口雅子、根木宏明、吉川雄一郎：『病棟看護師による脳卒中急性期の摂食嚥下評価－DSS (DysphagiaSeverityScale) の普及－』 2020. 8.23～9.24 第45回 日本脳卒中学会学術集会 (COVID-19によりWEB開催)

茂木沙樹、大場まみ子、瀬尾直希、鈴木昭広、川上幸子：心臓や大血管の開心手術後における早期リハビリテーションを阻害する因子～手術後の経過に伴う変化を比較して～  
2021. 2. 12-14 第48回 日本集中治療医学会学術集会 (COVID-19によりWEB開催)